

R ろうきん

SDGs REPORT 2026

題字:A/Yfont ©sendaifont
Artwork:加藤 大輝(アスノバ)



ろうきんの理念

ろうきんは、働く人の夢と共感を創造する
協同組織の福祉金融機関です。

ろうきんは、会員が行う経済・福祉・環境および
文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる
社会の実現に寄与することを目的とします。

ろうきんは、働く人の団体、広く市民の参加による団体を会員とし、
そのネットワークによって成り立っています。

会員は、平等の立場でろうきんの運営に参画し、
運動と事業の発展に努めます。

ろうきんは、誠実・公正および公開を旨とし、
健全経営に徹して会員の信頼に応えます。

CONTENTS

ろうきんの理念	1
トップメッセージ	2
ろうきんの歩み	3
ろうきんビジョン2035	4
ろうきんSDGs行動指針	5
ろうきんがめざす「人々が支え合う共生社会」	6
ろうきんの社会的役割とお金の流れ	7
ろうきんと2025国際協同組合理年	8
[意思のあるお金1] ろうきんならではの商品・サービス	10
[意思のあるお金2] 地域社会との連携	14
[意思のあるお金3] ESG投融資の取組み	28
ディーセント・ワークの実践	33
ろうきんのネットワーク	34

トップメッセージ

読者の皆さま、 「ろうきんSDGsレポート2026」へようこそ。

ろうきんは、勤労者や生活者が、自ら築きあげた協同組織の福祉金融機関です。1950年の誕生以来、常にはたらく人に寄り添い、住宅や教育の資金、資産形成など、はたらく人の多様なニーズに応えてきました。

2024年には、「ろうきんビジョン2035 ～共感と協創～」を策定し、福祉金融という変わらぬ目的と協同組織の本質、価値観を大切にしながら、はたらく人とその家族の生涯に寄り添い、変革を続けることによって、ろうきんが次の10年余りでめざす姿を示しました。また、ろうきんだけでは解決できない、はたらく人の「働くこと／暮らすこと」の課題解決に向けて会員・地域との協同を掲げています。

2025年度の全国のろうきんのSDGs達成に向けた取組みをまとめた本誌には、そうした会員・地域との協同による社会的課題の解決に向けた活動を数多く掲載しました。店推進委員会との連携によるソーシャルセクターへの支援や、地域の協同組合とともに開催した若年層向けの金融教育など、全国のろうきんでは各地域の特色を生かした活動を様々に展開しています。

また、国連が定めた国際協同組合年(IYC: International Year of Cooperatives)である2025年は、協同組合の認知の向上と振興のために、新しい協同組合間連携の可能性の探求等にも挑戦しました。ろうきん業態においては、「労金業態で働くすべての役職員が学び、実践し、発信しよう!」をテーマにした、全国のろうきん職員の理解醸成を深めるための学習会やシンポジウム等の開催を通じて、この機会に得られた成果を2026年以降の活動に積極的に活かしていく所存です。

いま、世界では、緊迫する地政学リスクとそれにとまなう社会経済の不確実性や人権にまつわる問題、あるいは新型AI技術の登場によるサイバー犯罪への対策の重要性などが強く認識されており、持続可能な社会の実現に向けて乗り越えるべき課題が山積しています。

私たちの暮らしにおいては、長引く物価高騰や、少子高齢化と急激な人口減少など、地域の人々やはたらく人、そして私たちが直面している課題が複雑化・重層化しています。従来の活動の踏襲や、ろうきん単独で向き合うだけでは解決できないことが多く、協同・協力が一層重要となる時代に突入しています。

私たちに求められているのは、社会的な課題解決に向けた役割発揮を未来志向で考え、その実現に向けた行動変容につなげて実践することです。ろうきんは、共助のネットワークと金融機能を活かしながら、はたらく人の生活向上という使命を徹底して追求し、その大切な資金を“意思のあるお金”として持続可能な社会へと循環させていきます。



一般社団法人全国労働金庫協会 理事長
西田 安範

はたらく人の生活を 支え続けてきたろうきんの歩み

1950年に岡山県と兵庫県に設立されて以来75年、常にはたらく仲間に寄り添い、その時々の変化により、はたらく人とその家族の生活を支えるためのセーフティネットとしての機能を果たしてきました。

はたらく人のための 金融機関を

1950年
はたらく人が資金を出し合い岡山県と
兵庫県にろうきんを設立

はたらく人の 資産形成促進

1972年
財形貯蓄の取扱いを開始
現在では、契約件数・残高ともに金融機
関全業態第1位※
※厚生労働省調べ(2026年3月末)

サラ金被害から はたらく人を守る

1983年
消費者金融の高利・多重債務が社会問題
となるなか、はたらく人の被害の防止と
救済を目的に、全国で「サラ金対策キャン
ペーン」を展開

福祉事業の助成・融資

1995年
阪神・淡路大震災を受け、「緊急融資制
度」と「震災遺児支援定期」を創設

2000年
阪神・淡路大震災での「ボランティア革
命」を受け、金融界初※のNPO向け融資
制度を創設
※旧群馬ろうきん・旧東京ろうきん(現中
央ろうきん)、近畿ろうきんで開始(2000
年4月)

就労支援・生活応援

2005年
消費者教育誌「マネートラブルにかつ!」
の発行を開始
「ろうきん森の学校」を開校

2007年
多重債務に陥ったはたらく人の救済を目
的に全国で「生活応援運動」を展開

2008年
リーマン・ショックを受け、「就職安定資金
融資」の取扱いを開始

2009年
お金に係る諸問題に対応する「生活応援
運動」の取組みが評価され「ニッキン賞」
を受賞

2010年
労金連が「SRI(社会的責任投資)原則」を
制定

被災者支援と SDGsの取組み

2011年
東日本大震災の復興支援に尽力
「21世紀金融行動原則」へ署名

2014年
「ろうきんビジョン～人々が支え合う共生
社会の実現のために～」を策定

2016年
熊本地震の復興支援に尽力

2017年
労金連が「PRI(責任投資原則)」へ署名

2019年
「ろうきんSDGs行動指針」を策定

2020年
新型コロナウイルス感染症拡大に伴う
「勤労者生活支援特別融資制度」を導入

共生社会の実現

2021年
ILO条約(国際基準)に沿った「労働金庫
業態におけるあらゆるハラスメント禁止
ガイドライン」を策定

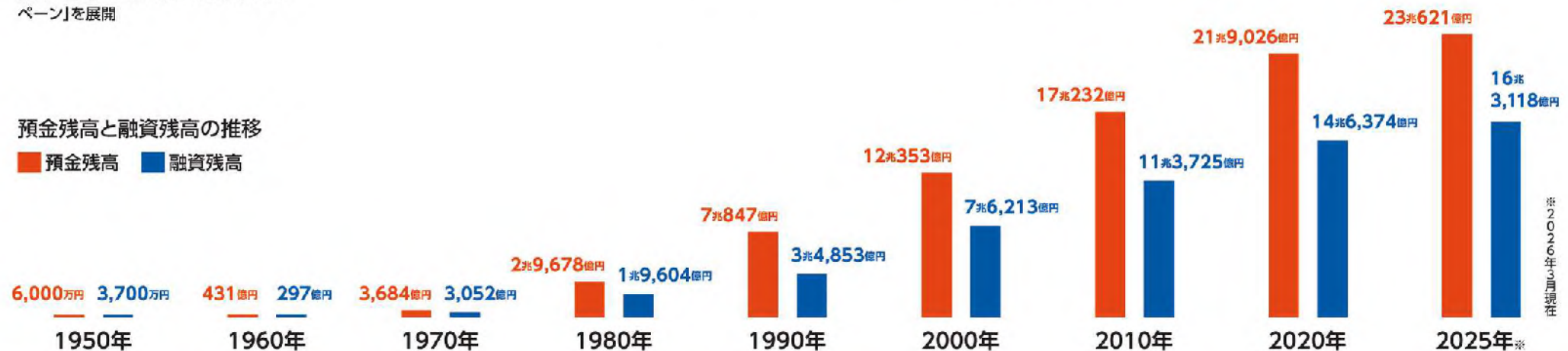
2023年
ILO-ろうきん共催フォーラム(「助けて」
といえる社会をつくる～社会正義の実現
に向けて～)を開催

2024年
「ろうきんビジョン2035
～共感と協創～」を策定

2025年
2025国際協同組合年(IYC2025)の
取組みを展開

預金残高と融資残高の推移

■ 預金残高 ■ 融資残高



- 朝鮮戦争
- いざなぎ景気
- 大阪万博
- 消費税導入
- ソビエト連邦崩壊
- 日韓W杯
- 東日本大震災
- 新型コロナウイルス感染症拡大
- 2025国際協同組合年
- 神武景気となべ底不況
- 東京オリンピック
- 阪神・淡路大震災
- リーマン・ショック
- 2012国際協同組合年
- 東京オリンピック・パラリンピック
- バブル経済崩壊
- 熊本地震
- 成年年齢引き下げ
- 能登半島地震
- 大阪・関西万博

ろうきんビジョン2035 ～共感と協創～

2024年、〈ろうきん〉に求められる役割・事業のあり方を踏まえ、次の10年余りで〈ろうきん〉業態がめざす姿を描いた「ろうきんビジョン2035～共感と協創～」を策定しました。全国の〈ろうきん〉は、会員・地域の仲間との共感を礎として、はたらく人の夢を実現するため、協創の取組みを進めていきます。

存在意義

はたらく人とその家族の夢としあわせな暮らしの実現 ～共感と信頼の力で／会員・地域の仲間とともに～

提供価値

はたらく人とその家族の生涯に寄り添い、一人ひとりの様々な課題に真摯に向き合い解決する

夢としあわせの実現

はたらく人とその家族

安心できる暮らし

協同による共感と信頼

会員

労働組合、
生協・こくみん共済 coop、
互助会・友の会等



地域

労福協、協同組合、
ソーシャルセクター、行政・自治体、
その他理念・想いを共有する団体・人々



金融機能で
課題解決をめざすこと

I

はたらく人のいちばん近くで、
はたらく人を誰よりも深く知る

地域と協同して
課題解決をめざすこと



II

時代のニーズを捉え、自らの機能・役割を
常に見直し、はたらく人一人ひとりに最適な
金融サービスを提供する

III

はたらく人の「働くこと／暮らすこと」の
課題解決に向けて、会員・地域の仲間と
協同する

ろうきんSDGs行動指針

2019年3月、全国の〈ろうきん〉の統一的な指針として「ろうきんSDGs行動指針」を策定しました。労金運動を通じた勤労者の生活向上という、〈ろうきん〉の使命を徹底追求することを通じて、SDGs達成に向けた協同組織金融機関としての役割発揮と社会への貢献に取り組んでいます。

勤労者の生涯にわたる生活向上サポート

〈ろうきん〉は、「ろうきんの理念」とそれを実現するための「ろうきんビジョン」に基づき、勤労者のための非営利の協同組織金融機関として、勤労者の生涯にわたる生活向上のサポートに取り組んでいます。〈ろうきん〉は、こうした活動をさらに強化・徹底し、勤労者を取り巻く様々な社会的課題の解決に取り組むことを通じて、SDGsの達成をめざします。

労金運動やESG投資の実践を通じた「意思のあるお金」による社会的好循環の創出

〈ろうきん〉は、勤労者の大切な資金を、勤労者自身の生活向上のための融資や、社会や環境等に配慮したESG投資などに役立てることを通じて、持続可能な社会の実現に資するお金の流れをつくりだしていきます。

非営利・協同セクターとの連携強化による社会課題の解決

〈ろうきん〉は、労働組合・生活協同組合などの会員や労働者福祉に関わる団体、協同組織・NPO・社会福祉法人・社団・財団などの非営利・協同セクター、自治体などとのネットワークを強化し、連携して地域における福祉・教育・環境・自然災害などの社会的課題の解決に取り組んでいます。

SDGsの達成に向けた「共感の輪」の拡大

〈ろうきん〉は、SDGs達成に向けた様々な取り組みやその成果を発信し、〈ろうきん〉を利用することがSDGs推進につながっていくことを会員や労働者など広く社会に伝えることにより、SDGs達成に向けた共感の輪を広げていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ろうきんがめざす

「人々が支え合う共生社会」



はたらく人を取り巻く社会課題に『共助』『共感』『循環』の3つのアプローチで取り組みを展開し、「人々が支え合う共生社会」の実現をめざします。

社会課題

3つの
アプローチ

ろうきんが特定した社会課題
(SDGs“5つのP”に対応する社会課題)

人々が支え合う
共生社会の実現

気候
変動

少子
高齢化

格差
問題

人権
問題

- 気候変動による災害の頻発
- 老後に対する不安
- 進展するデジタル化への対応
- 育児・介護と仕事の両立
- パート・有期雇用等の不安定な雇用で働く人の増加など



共助

「共助」の活動として、「公助」を補完し、「自助」だけでは乗り越えられない課題の解決を図る



共感

「共感」の輪を広げ、最大化していく



循環

「意思のあるお金」が社会に循環し、よりよい社会づくりに向かう仕組みをつくる



People
—人間—



Prosperity
—豊かさ—



Planet
—地球—



Peace
—平和—



Partnership
—パートナーシップ—

金融包摂

はたらく仲間が抱える様々な悩みや不安に寄り添う、ろうきんらしい金融包摂の取り組み

金融経済教育

マネートラブルや多重債務に陥らないための金融リテラシー向上の啓発

女性・子育て応援

はたらく女性や家族を応援し、未来を創造するための金融商品・サービスの提供

被災者支援

予期せぬ自然災害への備えや被災者の生活再建に向けた包括的な支援

はたらく人の
生活支援

良質な金融商品・サービスの提供を通じたはたらく人の生活支援

ディーセント・ワーク
の実践

ろうきんの役職員がやりがいと責任をもってSDGsに取り組むための職場環境整備

地球環境の保全

地域に根ざした継続的な環境保全活動や未来に向けた環境教育活動

犯罪防止

ろうきんを安心・安全に利用できるための環境整備や金融犯罪防止活動

利用者とともに歩む

ろうきんの利用が社会課題の解決につながる「利用者とともに歩む」仕組みづくり

協同組織や
行政との連携

地域で活動する協同組織や行政機関とともに社会課題の解決をめざす連携事業

ESG投融資

環境・社会・ガバナンスを考慮した投融資による持続可能な社会づくり



**誰一人取り残さない
金融包摂**

人々が、等しく
必要な金融サービスを
享受することができる社会



相互扶助

人々が、互いを尊重して、
助け合う社会



ウェルビーイング

人々が、快適かつ安心に、
将来に希望をもって
暮らしていける社会

ろうきんの社会的役割とお金の流れ

ろうきんは、はたらく人からお預かりした大切な資金を、はたらく人自身の生活向上のための融資や、社会や環境等に配慮した投融資に役立てることを通じて、持続可能な社会の実現に資するお金の流れをつくりだしています。そして、この「意思のあるお金」による社会的好循環を、会員・地域とともに、労働者福祉に関わる団体、協同組合やNPOなどのソーシャルセクター等との協同を通じて、実現していきます。



IYC2025

ろうきんと2025国際協同組合年

全国のろうきん

ろうきん協会主催国際協同組合年シンポジウム

ろうきん協会は、ろうきんの協同組合としての役割や価値を再認識し、また実践・発信するため、2025年11月28日に「国際協同組合年シンポジウム～協同の力で社会を変える～」を開催しました。本シンポジウムでは、学識者や活動の実践者によるパネルディスカッションや、ろうきんLab*における新しい事業モデルの構築の取組み状況報告、さらに全国のろうきん職員によるトークセッションが行われ、多様化する社会的課題の解決をめざす協同組合間連携の中で、ろうきんの果たすべき役割や事業のあり方を改めて考える機会となりました。

*ろうきんLab(ラボ)とは、ろうきんの持続的な発展に資する事業モデルの開発に向けた調査・研究活動のこと。

パネルディスカッション

「協同の力で社会を変える」をテーマに、学識者や活動の実践者6名を招き、IYC2025を契機として、改めて求められる協同組合間連携による社会課題解決や行動変革についてパネルディスカッションを行いました。

「現在の社会は必ずしも暮らしやすいものではない」という問題意識のもとに、「非営利・協同セクターが、このような社会を変革する中心的な立ち位置になり得るのではないか」という視点で議論が交わされ、ろうきんが目指す協同組合としての在り方に寄せられる期待が大きくなっていることが示唆されました。

トークセッション

トークセッションでは、各金庫・中央機関から選抜された、若手職員・地域共生等に携わる職員16名によって、IYC2025の取組みを通じた行動変容が宣言されました。ろうきん職員は「協同組合としてのろうきん」の魅力を一人数多くの方に届ける、「職場や地域、組織の中に存在する『温度差』を埋め、協同組合としての理念と日常業務をつなぎ直す」などと宣言し、「協同組合の一員である」というろうきんの事業に関わる者として大切な意識をより一層高めました。

ろうきんは協同組合の一つですが、協同組合としての活動への関わり方や意識には地域差があり、全体としてはまだそれらの広がり十分とはいえない状況です。言い換えると、ろうきんは、数多く存在する地域の協同組合と連携することによって地域が抱える様々な問題を解決する力を今まで以上に発揮できるという可能性を秘めているともいえます。本シンポジウムは、協同組合への積極的な動きを2025年で終わりとするのではなく、2026年以降の活動につなげる契機とすることを目的として開催しました。引き続き、全国のろうきんは協同組合としてのろうきんの活動を実践するための行動に取組んでいきます。



全国のろうきん

WEB学習会

ろうきん協会は、全国のろうきん職員の協同組合に係る知識・意識の向上を図り、「協同組織としてのろうきん」を見つめ直す機会とするため、2025年4月から11月まで、毎月WEB学習会を開催しました。

4月～8月は外部講師を招き、広く協同組合について学び、9月～11月は労働金庫事業にフォーカスして新たな事業モデルを展望するテーマを設定したことで、ろうきんにおける協同組合活動について検討するための知見を養う場となりました。回を重ねるごとに、具体的な事例に踏み込んだ話題が取り扱われ、ろうきん職員は、多角的な視点を意識しながら、自分たちの役割について考えを深めました。

本学習会は、この後11月28日に開催した国際協同組合年シンポジウムの理解をより深めるための足がかりとしての側面を持つとともに、本学習会で得た知見は2026年以降の活動へつながっていきます。

テーマ

- 4月 協同組合、労働者福祉運動と国際協同組合年
- 5月 社会的連帯経済を学ぶ～協同組合運動の源流から考える～
- 6月 これからの時代に期待される協同組合銀行～ドイツから考える～
- 7月 労働者協同組合(ワーカーズコープ)～社会課題を解決する協同組合～
- 8月 労働者自主福祉運動と労働金庫の歴史と役割を学ぶ
- 9月 新しい働き方と労働者福祉～労働者協同組合との連携の可能性～
- 10月 地域を支える温かいお金～「ろうきんLab」がめざすもの～
- 11月 地域を支える温かいお金～高齢者対策を考える～

ろうきん協会

協同組合フェスティバル

毎年7月の第1土曜日は「国際協同組合デー」に設定されています。2025年7月5日は、IYC2025全国実行委員会の主催により、東京国際フォーラムで「協同組合フェスティバル」が開催されました。当日は、38団体がブースを出展し、食品・雑貨・書籍などの販売、大地震の揺れの疑似体験や防災クイズ、さらに著名人によるトークショーやクイズなどが行われました。

ろうきん協会のブースでは、「ROKINラッキーくじ」によるノベルティグッズの配布や、マネートラブル防止に係る啓発動画の上映のほか、広報冊子の「ろうきんガイドブック2025」と「お金の世界の歩き方」の配布を行いました。協同組合の仲間とその家族がブースに訪れ、子どもたちの間では特にくじ引きが人気を集める等、協同組合のつながりを改めて実感できる時間となりました。



ろうきん協会

トップセミナー

ろうきん協会は、2025年7月1日、第44回トップセミナーを開催し、全国のろうきん役職員が参加しました。協同組合の役員や有識者5名を招へいし、「ろうきんが協同組合としてのアイデンティティをどのように捉え、組織や事業、日々の活動にどう活かしていくか」をテーマに多角的な対話を行いました。ラウンドテーブル(円卓会議)形式での活発な意見交換が行われ、本セミナーはIYC2025に係る一連の活動の中間総括として、「学び」から「実践」へとつなぐ橋渡しの場となりました。



北海道ろうきん

北海学園大学ビジネス実践力講座&ワーカーズ北海道協同集会

北海道ろうきんは、北海学園大学経営学部独自の実践型プログラムである「ビジネス実践力講座」の2025年度講座パートナーとなり、全15回の講義を開講しました。ゲスト講師による講演を通じて、地域の課題解決に取り組む意図や着眼点を学び、北海道ろうきんをハブとした「地域課題の発見及びその解決策の提案」を学生の最終課題としました。

また、北海道ろうきんは、ワーカーズコープが主催する「北海道協同集会(IYC2025全国実行委員会認定事業)」へ実行委員として参画しています。2025年12月4日の集会当日は、北海学園大学 佐藤大輔研究室と連携し、ゼミ生がトークセッションに登壇しました。



近畿ろうきん・ろうきん協会

近畿ろうきん・ろうきん協会共催 国際協同組合年記念シンポジウム

近畿ろうきんとろうきん協会は、2025年11月16日、ホテル日航大阪にて、国際協同組合年記念シンポジウムを共催しました。

本シンポジウムでは、国際労働機関(ILO)クレグ・チャーチル氏による「ろうきんと、ろうきんを支える労働組合の成果と社会的意義」をテーマとした基調講演や、「労働組合と非営利・協同セクターの協働がより良い未来を築くこと」をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。

労金運動や協同組合の優位性、そして今後のさらなる可能性を確認し、労金運動強化にむけた機運醸成の場となりました。



ろうきん協会

4団体共催記念シンポジウム

2025年7月31日、日本労働組合総連合会(連合)、労働者福祉中央協議会(中央労福協)、こくみん共済 coop、ろうきん協会の4団体で「2025国際協同組合年記念シンポジウム」を共催し、会場には約200名の参加者が集いました。

パネルディスカッションでは、コーディネーターと3名のパネリストにより、「労働組合と協同組合の連携に向けて」をテーマに議論を交わしました。本シンポジウムを通じて、協同組合が持つ社会的役割や価値への認識が改めて深まり、協同組合の認知・理解を広げるための歩みが進められました。



北海道ろうきん

全道ウェルフェアスクールへの参画 「私たちがNPOを立ち上げるとしたら」

2025年10月2・3日、北海道労福協が主催となり、労働団体と福祉事業団体・協同組合との連携強化をメインテーマとした全道ウェルフェアスクールが開催されました。

北海道ろうきんは、北海道労福協・連合北海道青年委員会・こくみん共済 coopと、実行委員会メンバーとして参画するとともに、「協同」による共生社会の実現」と題して、共生社会の実現に向けた取組みや、IYC2025について講話を行いました。

また、分散会では、グループワークテーマを「私たちがNPO団体を立ち上げるとしたら」に設定し、参加者同士で、地域課題に対する「協同の力」の活かし方や、具体的な活動アイデア等を議論しました。



沖縄ろうきん

沖縄ろうきんIYC2025フェスタへの参加

2025年11月30日、IYC2025の取組みの一環として、沖縄県内の協同組織でつくる沖縄県協同組合間提携推進協議会主催の「IYC2025フェスタ」が開催されました。沖縄県内の協同組合が協働し、協同組合の役割や地域住民への認知度を高めるとともに、構成団体の相互理解ならびにつなぐの深化を目的として、取り組みました。

フェスタ当日は、沖縄ろうきんをはじめとした9団体がブースを出展し、200人が参加しました。沖縄ろうきんでは、金融リテラシー教育および社会貢献活動に関する周知活動を行いました。

【 意思のあるお金 1 】

ろうきんならではの 商品・サービス

はたらく人からお預かりした資金を、はたらく人へ。
ろうきんは、時代や社会の変化に応じて、
はたらく人が抱える様々な悩みや不安に寄り添う、
ろうきんならではの金融包摂の取組みを
展開しています。

【 意思のあるお金 1 】

ろうきんならではの商品・サービス

中央・新潟・静岡・沖縄ろうきん

パート・有期雇用契約等でお勤めの方を支援する取組み

中央ろうきんでは、会員労働組合等にご所属の方を対象とした、パート・有期雇用契約等でお勤めの方向けの融資商品「ステップ50」を取扱っております。

本商品は、会員労働組合の組合員の皆様からのお声から誕生したフリーローンです。制度利用に関する協定書を締結した会員労働組合等にご所属の方がご利用可能で、生活資金全般にお使いいただけます。雇用形態や年収等を問わず幅広い方にご利用いただけるような商品設計になっており、ご利用者の働き方に関わらず、様々なライフプランにお役立ていただくことが可能です。

なお、新潟・静岡・沖縄の各ろうきんでも、パート・有期雇用契約等でお勤めの方に向けた融資制度を取り扱っております。



※リーフレット画像はイメージであり、融資金利等は変更となる場合があります。

実績 (2025年4月～2026年3月末)

ステップ50 制度利用協定書締結会員数: **711会員** 実行件数: **17件** 実行額: **8,400千円**

新潟・中央・長野・静岡ろうきん

新社会人をサポートする取組み

新潟ろうきんでは、新社会人の方をサポートする取組みとして、新潟県内の企業等から就職内定を受けた新卒内定者の方(18歳以上30歳未満)を対象とした「就職内定者向けローン」を取り扱っています。

当商品は、自動車購入や引越し費用のほか、就職前の短期留学に係る費用などに幅広くご利用いただけます。また、用途に応じて、新潟ろうきんの各種無担保ローン商品と同様の金利・融資期間を適用できるほか、初任給を受け取るまでの間(最長7ヵ月)の元金返済の据置が可能なのが特徴です。

なお、中央・長野・静岡の各ろうきんでも、新社会人等を応援する商品を取り扱っています。



静岡ろうきん

ご利用者と力を合わせて被災地を応援する取組み

静岡ろうきんでは、お客様からお預かりした定期預金の利息の一部を災害復興につなげる、災害復興応援定期「きぼうのあかり」を取り扱っています。

寄付金額は、定期預金ご利用者の寄付負担(金利引下げ分の利息相当額)と静岡ろうきんの拠出金の合計額とし、地域の皆様とろうきんが協力して被災地を支援するための資金を寄付する仕組みになっています。

実績 (2025年9月25日～2026年3月31日)

定期預金の預入件数: **410件**
定期預金の預入残高: **911百万円**
寄付先: **2団体**
(日本赤十字社 静岡県支部・
静岡県ボランティア協会)

静岡ろうきん
ホームページ
きぼうのあかり



長野ろうきん

子育て世帯を応援する取組み

長野ろうきんでは、子育て世帯を応援する様々な商品・制度を取扱っています。

「ろうきんchou-chou(シュシュ)こども積立」は、満18歳以下のお子さまの保護者の方がご利用いただける、金利上乘せがある有利な積立預金です。お子さまの節目の行事などで資金が必要な際には、一部のお金を引き出ししながら、積立を継続することができます。

また、住宅ローン「子育て応援優遇」制度は、住宅ローン申込者ご本人または配偶者が「ろうきんchou-chouシリーズ」を契約中かつ18歳以下のお子さま(18歳に達する年度の3月末まで)がいいらっしゃる場合に、住宅ローンお借入れ金利の引下げが適用される制度です。



実績 (2026年3月末時点) こども積立 口座数: **11,376件** 残高: **6,996,497千円**

【 意思のあるお金 1 】

ろうきんならではの商品・サービス

中国・長野ろうきん

女性応援プロジェクトの展開

中国ろうきんでは、女性の資産形成を応援する商品として「女性応援Raseek定期預金」を取り扱っています。積立投資信託を一定金額以上ご契約中の会員労働組合員のお客様等を対象とした、特別金利の定期預金です。投資信託と定期預金を組み合わせることによる、ご利用者のライフプランにマッチした資産形成のサポートを行っています。

本商品は、ろうきんRaseek(らしーく)活動の一環として実施しています。また、Webサイトでは本活動の取組状況やマネーコラム・キッズコンテンツ等のお役立ち情報を発信し、金融サービスにとどまらない活動を展開しています。

なお、長野ろうきんにおいても、女性応援プロジェクト「ろうきんchou-chou(シュシュ)」による女性応援の取組みを実施しています。



九州ろうきん

利息の一部を寄付する定期預金商品

九州ろうきんでは、社会貢献預金「子ども未来応援定期」の取扱いを通して、未来を担う子どもたちを支援する団体へ資金を送っています。

当商品は、店頭表示金利から所定の金利を引下げた適用金利を定期預金金利に設定し、その金利引下げ幅分の利息相当額をお客様からの寄付額とみなして、子どもたちを支援する九州7県の団体へ寄付します。

実績 (2025年1月～12月実績)

子ども未来応援定期預金

定期預金の預入件数: 8,561件 寄付額: 2,887,003円



近畿ろうきん51店舗が取り組む新しい仕組みの子ども支援 「推しのNPOプロジェクト」

近畿ろうきん

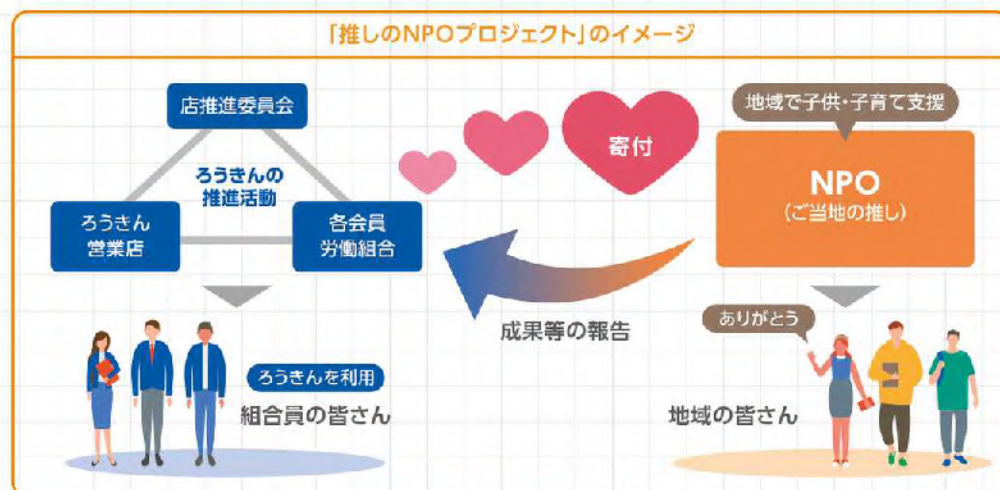
近畿ろうきんでは、地域のNPO等と連携しながら、子ども支援の取組みを進めています。2025年度は、新たに「推しのNPOプロジェクト」と題して51店舗の推進委員会(会員労働組合等の代表者が集まって、店舗の運営方針等を話し合う場)が主体となった、地域のNPO支援にかかる施策を始動させました。

推しのNPOプロジェクトとは

「推しのNPOプロジェクト」は、営業店と店舗の推進委員会がともに取り組む企画で、地域で子ども・子育て支援活動を行うご当地NPOの中から、目的や活動内容に共感できる「推しのNPO」(＝応援したい・推したいNPO)を自分たちで選出し、年に一度寄付を行う仕組みになっています。

活動の流れ

- 1 各営業店および推進委員会が、ご当地NPOの中から「推し」を選出
- 2 営業店・推進委員会・会員労働組合等が、ろうきんの推進活動に取り組む
→ その行動量・結果をもって寄付金額を決定し、「推し」へ寄付
- 3 NPOは、ファン(寄付した営業店)へ
寄付金の使途や成果を報告(フィードバック)



ろうきん運動が職域×地域連携を生む仕組み

本プロジェクトの特徴は、会員労働組合等とともに取り組む「ろうきん運動」の行動プロセスに観点をおき、寄付額決定の根拠とする点にあります。

これまでろうきんが行ってきた主な寄付活動(ろうきんご利用者から集めた預金やご厚意をもとに実施する寄付など)とは異なり、本プロジェクトでは、会員労働組合等によるろうきん運動(例:金融セミナーの開催・積立預金募集活動・相談会窓口の設置など)をポイント化し、その年間ポイントを寄付額に連動する仕組みになっています。

また、ろうきんの運営をともに担う推進委員会のメンバーが、地域のNPOとの連携活動に取り組むことで、これまでの労働組合等間の職域のつながりだけではなく、職域と地域という新しいつながりが広がっていくことも、本プロジェクトの大きな特徴だといえます。

本プロジェクトの展望

※2024年12月5日付近畿ろうきんプレスリリースより抜粋

多くの労働組合では、「組合員が暮らす地域への貢献活動に高い関心を寄せている」ものの、「地域との結びつきが薄く、地域貢献をどのようにしたらよいか分からない」といった課題を抱えています。

また、多くのNPOでは、「自分たちの活動や解決すべき課題が地域に伝わっていない」と感じながら、「もっと活動を増やしたいが、人的資源等が足りない」といった課題を抱えています。

本プロジェクトによって、寄付金によるNPOの経済的支援(＝活動の強化)はもちろんのこと、労働組合とNPOとの双方ニーズのマッチング(＝新たなネットワークの構築)が図られ、子ども・子育てに関するさまざまな取組みが自主的に生まれる(＝社会課題の改善)のではないかと期待しています。

本プロジェクトは、地域のさまざまな非営利団体とのネットワークを築いてきた「ろうきん」だからこそ実現できる取組みであると考えます。今後も勤労者福祉金融機関としての役割を果たすべく、会員労働組合や非営利団体の仲間とともに、社会課題の解決に貢献していく所存です。

【意思のあるお金 2】

地域社会との連携

ろうきんは、ろうきん単独では解決できない
「働くこと／暮らすこと」に関わる
社会的課題の解決に向け、会員・地域と協同し、
はたらく人の“安心できる暮らし”の実現を
めざしています。

- ① ろうきんの利用が社会的課題の解決につながる
仕組みづくり
- ② NPO・ボランティア団体への助成・支援
- ③ 会員・地域との協同
 - 会員・協同組合・地域等との連携
 - 金融経済教育の取組み
 - 地球環境の保全
 - 多様なお客様への取組み
 - 安心・安全な社会の実現

地域社会との連携

1 ろうきんの利用が社会的課題の解決につながる仕組みづくり

静岡ろうきん

ローンの利用件数に応じた地域団体への寄付

静岡ろうきんでは、これまで実践してきた社会貢献活動とSDGsを融合させた「静岡ろうきんSDGs実践方針」を策定し、誰一人取り残さない持続可能な地域社会の実現に向けて取り組んでいます。

その取り組みの柱の一つである「地域への貢献活動」として、無担保ローン（オートローン・ライフローン・教育ローン・無担保住宅ローン）や、福祉・子育て・不妊治療等に関連する各種商品の新規契約1件につき20円を、地域で活動する団体へ寄付しました。

実績

オールしずおかベストコミュニティ（障害者の就労支援を行う団体）
ローンの利用件数（のべ）：**8,795件** 寄付金額：**175,900円**

ホスピタルアートプロジェクトしずおか
（アートを通じた療養環境の向上に取り組む学生団体）
ローンの利用件数（のべ）：**9,005件** 寄付金額：**180,100円**



中国ろうきん

ろうきんのサービス（金融商品・セミナー開催）ご利用数に応じた社会貢献団体への寄付

中国ろうきんでは、ろうきんのサービスをご利用いただいた件数に応じた、社会貢献団体等への寄付活動を行っています。

対象となる所定の積立預金・預かり資産・ローン等のご利用契約実績に応じた支援金の寄付だけでなく、中国ろうきんによるご利用者向けのセミナー（金融リテラシーや生活応援に係る講習会など）の開催回数に応じた支援金の算定・寄付を行い、地域の非営利団体の支援につなげています。

実績 寄付先および寄付金額

- いのちの電話（電話を通じた自殺予防の取り組み団体）
1,827,700円
- ほほえみ基金（ピンクリボン活動など乳がん征圧を目的とした基金）
330,100円
- 各県の社会貢献団体（全7団体）：**617,000円**



北陸ろうきん

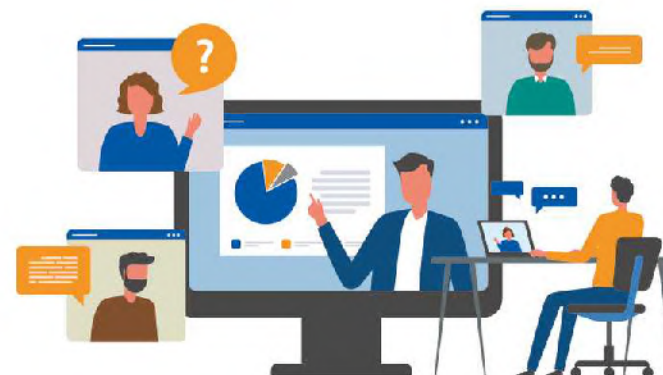
復興応援定期預金「結3」の発売

北陸ろうきんでは、令和6年能登半島地震被災地の復興支援の取り組みとして、2025年度は復興応援定期預金「結3」を発売し、ご利用者の皆様からの預け入れを募集しました。

この復興応援定期預金に係る取組みは、2024年度から継続しており、預金残高に応じた義援金を北陸3県の団体に寄贈する仕組みとなっています。

2026年3月から4月の間に、富山県、石川県、日本赤十字社福井支部の3団体へ、合計1,070万円を寄付しました。

北陸ろうきんでは、2026年度も引き続き令和6年能登半島地震被災地への復興支援を行っています。



地域社会との連携

四国ろうきん

四国ろうきん1万人笑顔プロジェクト

四国ろうきんでは、2018年4月から「四国ろうきん1万人笑顔プロジェクト」を展開し、福祉金融機関ならではの寄付活動を通して、多くの方々の笑顔の創出に貢献しています。

本プロジェクトは、ろうきんローン1件のご利用につき100円を四国ろうきんが拠出して寄付を行うものです。ろうきんローンご利用時、ローン契約者の方が支援したい社会貢献活動(教育・子育て支援・障がい者支援・環境保護)を選び、その選択件数に応じて、関連の活動をしている団体へ寄付を行います。

2025年度(2025年4月～2026年3月)の取組みとして、四国4県の自治体や障がい者支援団体へ合計594,100円を寄付し、制度発足後8年間の寄付額は、4,648,800円となりました。



沖縄ろうきん

ろうきん・わしたシマづくり運動

沖縄ろうきんでは、ATMのお取引件数に応じた非営利団体等への寄付活動を行っています。

本制度は、沖縄ろうきんATM等でろうきんキャッシュカードでの入出金取引1件ごとに沖縄ろうきんが3円を拠出し、社会貢献活動団体等へ寄付する仕組み※です。

なお、寄付先は、沖縄県内で経済・福祉・環境・文化等に関わる活動に取り組む非営利団体等の自薦または他薦で決定します。

地域社会を支える市民活動を支援することで、「わしたシマ(私たちの島)沖縄」の地域づくりへとつなげていきます。

※2025年度までは、取引1件ごとに2円の寄付を実施

実績(2025年度)

寄付先の団体数: **21団体**

寄付金額: **1,500,000円**(21団体の総額)



地域社会との連携

2 NPO・ボランティア団体への助成・支援

北海道ろうきん

子どもの支援のための寄付・助成の仕組み

北海道ろうきんでは、協同組合ネット北海道※の一員として、地域の協同組合とともに、子どもの孤立を防ぎ安心して過ごせる居場所づくりを支援しています。

協同組合ネット北海道は、2025年9月12日に「子どもの居場所づくり応援基金」を創設しました。

本基金は、新しく「子ども食堂」や「子どもの居場所」のために活動する団体を対象に助成を行い、北海道ろうきんも事務局として参画しています。

地域の人々が協力して子どもたちを見守る温かいコミュニティを育むために寄付金が活用されます。2025年度は、4団体にに対し総額40万円（10万円×4団体）が助成されました。

※協同組合ネット北海道とは、地域の協同組合・関係機関16団体による組織です。「ゆるやか、あいのり、やってみる」をキーワードとして、単一の協同組合では解決できない課題を、道内複数の協同組合の連携で解決することにより、北海道経済の発展と道民の生活向上に寄与することを目的としています。



中央ろうきん

生きるたのしみと働くよろこびを享受できる 地域社会の創造に向けた取組み

中央ろうきんでは、「中央ろうきん助成制度“カナエルチカラ”」を通じて、誰もが安心して暮らすことができる地域社会の実現に取り組んでいます。

本助成制度のテーマは～生きるたのしみ、働くよろこび～です。

誰もが「生きるたのしみ」と「働くよろこび」を享受できる地域社会の創造に向けて、生活者・労働者の視点に立ち、参加や協力をベースとした市民団体のユニークで新しい試みやチャレンジを助成金を通じて応援しています。

毎年の応募・選考を経て、最長3年間継続して助成を受けることが可能であり、選考時には、各都県の会員労働組合等や各地域のNPO中間支援組織、専門家等が参画している点が特徴です。

また、助成期間中は対象事業の進捗確認やフォローアップを実施しているほか、助成団体や選考関係者等を招いた贈呈式を開催するなど、中央ろうきんと助成団体の連携だけでなく、制度に参画した関係者の方々を含んだ連携・交流の促進にも力を入れています。



実績 (2025年度助成)

助成団体数: 26団体
助成総額: 1,421万円

東北ろうきん

大学生の社会貢献活動等を応援する取組み

東北ろうきんでは、東北6県の4年制大学に通う学生団体を対象とした、ボランティア活動や社会貢献活動を支援する助成制度「未来へのタスキ」を運営しています。2023年度から始まった本制度は、団体への助成期間が最長3年間という特徴があり、助成団体との間で継続的な連携が行われています。

2025年9月2日には、本制度による支援を行ってきた団体による活動報告会を開催しました。本報告会では、グループワークによる活動報告を行ったほか、日本ファンドレイジング協会が運営するカードゲーム「from Me」を通して、自分のウェルビーイング（幸福）とお金の使い方（寄付、投資、消費、貯蓄など）の関係性を疑似体験するコーナーが催されました。参加者は、地域の学生団体の仲間とのカードゲームを楽しみながら「社会課題」等に対して自分たちが起こせるアクションについて学びました。



北陸・北海道・東北・長野・近畿・沖縄ろうきん

食品の寄付による支援の取組み

北陸ろうきんでは、食支援および食品ロス削減の取組みとして、フードドライブ活動を実施しています。フードドライブとは、家庭で余っている食品を回収拠点に持ち寄り、地域の支援団体などに寄付する取組みです。2025年度は、2025年10月14日から2025年11月14日までの期間に広く食品の寄贈を募りました。

北陸ろうきんの職員や、店舗ご利用者の皆様、または会員労働組合等から寄せられた食品は、食品を必要とする方へ届けるため北陸3県のフードバンクへ寄贈しています。

なお、北海道、東北、長野、近畿、沖縄の各ろうきんでも、食品の寄付による地域団体の活動支援を行っています。



実績

北陸ろうきん フードドライブ

寄贈先
全3団体

- NPO法人 フードバンクとやま
- 認定NPO法人 いしかわフードバンク・ネット
- NPO法人 フードバンクふくい

寄贈量 合計557.5kg

地域社会との連携

3 会員・地域との協同 | 会員・協同組合・地域との連携

東北ろうきん

東北ろうきんフォーラム2025の開催

東北ろうきんでは、2025年12月4日に「東北ろうきんフォーラム2025」と題して、「共生社会の実現に向けた新たな連携のカタチ〜誰もが安心して働き・暮らせる東北をめざして〜」をテーマに、基調提案や過去助成団体の活動報告、パネルディスカッションを行いました。

誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりのため、「協同組合(ろうきんや生協など)」「労働団体(会員労働組合など)」「NPO(助成金制度による支援団体など)」の各分野の取り組みや課題を共有することで、その連携によって生まれる新たな可能性を探る機会となりました。

そのほか、はたらく仲間からの預金が助成制度を通じて地域活動に役立っていることや、協同組合が果たす役割についても学ぶことで、共生社会の実現に向けて考えを深めることにつなげました。



参加者 **107名** (会場参加:58名、オンライン参加:49名)

長野ろうきん

長野県協同組合フェスティバル

長野ろうきんは、県内の協同組合からなる「長野県協同組合連絡会」の一員として、地域の活動を盛り上げています。

連携活動の一環として、団体相互の活動交流ならびに協同組合活動の県民へのアピールを目的とする「長野県協同組合フェスティバル」を開催しました。

会場では、長野県内の農産物や加工食品、日用品などの販売・アピールブースが設置され、長野ろうきんは「『使えるお金を増やそう』アンケート」や、模擬紙幣を活用した「100万円つかみ取りチャレンジ」等を実施しました。

さらに、2025年は国際協同組合年であることから、会場内にはIYC2025ブースが設置され、「長野県のここが好き」や「こんな長野県になって欲しい」をテーマとした来場者のメッセージからなる「夢の樹」が創られました。



新潟ろうきん

営業店職員全員参加での地域団体との協同の取り組み

新潟ろうきんでは、職員一人ひとりが、地域の社会課題に対して当事者意識を持ち、福祉金融機関としての役割を発揮していくため、地域の課題解決に尽力するNPO団体やフードバンクなどの活動に全職員が参加し、地域との連携を深めています。

活動内容は、子ども食堂の活動支援や、イベントの共催、環境保全活動、青少年向け金融セミナーの開催など多岐にわたり、2025年度の連携実績は104団体となりました。

そのほかにも、地域社会が抱える様々な課題の解決をはかっていくため、新潟ろうきんのすべての営業店が、子ども食堂や青少年の教育・福祉を担う地域活動団体に対する寄付・寄贈を行う「地域がつながる寄付活動」に取り組んでいます。



実績 (2025年度)

地域がつながる寄付活動

寄付先: **60団体** 寄付金額: **3,095,448円** (物品寄贈を含む)

静岡ろうきん

地域団体へのボランティア派遣の取り組み

静岡ろうきんでは、県内各地域のNPO団体等の活動へろうきん職員を派遣し、ボランティア活動を行っています。

静岡県地球温暖化防止活動推進センター(一般社団法人アースライフネットワーク)の支援の一環として、小学生向け環境教育授業「アースキッズチャレンジ」の運営に参画し、2025年度はのべ8校での活動に職員8名を派遣しました。本プログラムでは、小学校高学年の子どもたちが、地球温暖化防止に関する体験学習と家庭での実践に取り組むことで、自分たちにできる環境保全についての理解を深めました。

そのほかにも、病院での療養環境の向上等を目的としたアートの制作補助(派遣先団体:ホスピタルアートプロジェクトしずおか)や、フードドライブで集約した食品の仕分け作業(派遣先団体:フードバンクふじのくに)などの活動を行いました。



地域社会との連携

近畿ろうきん

NPOラジオ 「KYOTO SOCIAL WAVE」への出演

近畿ろうきんでは、日本初となる「地域のNPOが運営するFMラジオ局」『京都三条ラジオカフェ』のウィークリー番組「KYOTO SOCIAL WAVE」のスポンサーを務めるとともに、当番組を通じて、社会課題解決に取り組む団体の活動について発信を行っています。

当番組毎月1回のペースで近畿ろうきんの職員が出演し、連携先の地域団体や推進委員会（会員労働組合等の代表者が集まって、店舗の運営方針等を話し合う場）のメンバーとともに情報発信を行います。

2025年度は「推しのNPOプロジェクト」(P13)施策に係る取組みについて、各支店ごとの活動状況を発信する回を複数設けました。各回において連携先のNPOや推進委員へのインタビュー等と交えながら、バラエティに富んだ話題を提供しました。



九州ろうきん

ろうきんマルシェの開催

九州ろうきんでは、福祉金融機関としての認知度の向上と、地域交流の活性化を目的として、地域の福祉施設等が出展するイベント「ろうきんマルシェ」を実施しています。

2025年11月8日の第3回「ろうきんマルシェ」には、8の福祉施設が参加して食品や雑貨の販売を行ったほか、2025国際協同組合年を機に協同組合の仲間である生協やこくみん共済coopが出展したことで、地域と福祉のつながりの促進だけでなく協同組合間での連携を深める機会となりました。



沖縄ろうきん

地域のソーシャル事業への協力 (オフィス産野菜の寄付)

沖縄ろうきんでは、地域でソーシャル事業を運営する株式会社478COMPANYによる「未来に芽をプロジェクト」に協賛し、オフィスで育てた野菜を毎月子ども食堂へ寄付する「478Farm (ヨナハファーム)」の取組みを実施しました。

本取組みは、オフィス内に、野菜やハーブを育てる屋内植物工房ユニットを設置し、そこで収穫した野菜を「おきなわ子ども未来ランチサポート」を通じて子ども食堂などへ寄付する仕組みになっています。沖縄ろうきんのほかにも、多くの地域の企業等が参加して、伝統野菜の普及や食支援活動を盛り上げました。



寄付実績 5か所の子どもの食堂へ年間600食分のサラダを提供

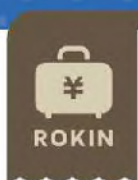
四国ろうきん

NPO等非営利法人事業融資制度 (NPO法人なかよしクラブへの資金支援)

四国ろうきんでは、社会貢献活動の一環として、「NPO等非営利法人事業融資」の制度を取り扱っています。本制度を活用して、香川県高松市で学童保育を運営している団体「NPO法人 なかよしクラブ」へ資金を貸し出し、活動の支援を行いました（実行額：6,000千円）。

当団体は、「子どもたちの安全で楽しい放課後を作りたい」と考えた保護者を中心になって1998年に始めた自主運営の学童保育で、長年にわたって地域の預かり保育事業を担っています。自治体助成金支給までの団体運営資金についてのご相談をきっかけに、四国ろうきんによる資金支援が実現しました。

全国のろうきんでは、地域で活動するNPO法人等の活動を支援するローン商品の取扱いを通して、地域の活性化・課題解決等に資する取組みを支援しています。



Social Report

ご利用者の皆さまからお預かりした資金の一部は、働くことや暮らしの安心を支えるソーシャルセクターへの融資等に活用されています。

社会福祉法人登別さいわい福祉会
北海道ろうきん

地域の声を聴き、 地域に根ざしたサービスを 提供し続けるために

「サポートセンター心愛(ここあ)」
誰もが安心して生活できる居場所づくり



「就労継続支援B型」・「共同生活援助(グループホーム)」・「生活介護」の3つの事業を主軸として、北海道登別市において障がいのある方の居場所づくりを展開する「社会福祉法人登別さいわい福祉会」(以下、当団体という)。2006年の法人創設当初からのスタッフであり、現在、当団体の業務執行理事を務める石橋沙織(いしばし さおり)さんから、その取組みと今後の展望を伺いました。

※就労継続支援B型とは

一般企業に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難な方に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を行う支援事業。

参考:厚生労働省Webサイト「障害者の就労支援対策の状況」(https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_40524.html)

01 生活・就労・住居提供をフルサポートする 3つの事業ネットワーク

当団体の活動の始まりである就労継続支援施設「月とらいおん」は2007年4月に開設されました。当初の利用者数6名のうち2名が道外居住であったことから、居住施設を地域に置くことの必要性を早期に認識し、同年10月には、地域生活の要となるグループホームの1施設目が開所しました。その後もニーズに応じてその数を増やし、現在「地域生活支援センターoneself」として運営するグループホームは全4施設となっています。

生活介護事業「サポートセンター心愛」は、民間企業が運営していた生活介護事業所を後継するかたちで2017年にスタートしました。当時の「月とらいおん」利用者の25%の方は、就労継続支援

よりも生活介護を通したサポートが必要だとみられていたことから、これを好機と捉えて事業継承を行ったといえます。

当団体ではこの3つの事業を通して、日中の就労または生活介護、および夜間の住まいの提供に係る支援を行い、ご利用者の日々をフルサポートしています。

3つの事業のイメージ



サポートセンター心愛での活動の様子



アイロンビーズで動物のイラストを作る様子。この方は、見本や法則性がない状態で、独創的な作品をあっという間に作ってしまうそう。



ペーパークイリング(細長く切った色紙を巻いたパーツを組み合わせて模様を作るアート)に取り組む様子。紙を巻く作業やパーツを台紙に張り付ける作業など、各自が専門パートを持つことで、分担・協力して作品を作る。



生活介護を受けながら就労する方々が、ねじパーツの仕分けと袋づめの軽作業に取り組む様子。発話が困難な方は、作業終了時の報告を卓上ベルで行うなどの工夫も。



看護師による脚のストレッチを受けている様子。筋肉の硬直を防ぐなどの目的で、医師の診断に則って定期的に運動を行っている。

02 コロナ禍を乗り越えるパートナーとなったろうきんとの連携

2020年、「サポートセンター心愛」は、活動拠点であったテナントからの退去申し入れを受けました。そこで、よりよい居場所づくりのために新築移転を行うことを決定しましたが、当時は「コロナ禍」による事業収入の減少が生じており、メインバンクから経営を不安視されていたため、融資相談をためらっていたといいます。

そんな折、寄付金の授受や「月とらいおん」製の食品提供などを通じて、近年連携が進んでいた、北海道ろうきん（室蘭東支店）へ相談することを選択しました。

「（コロナ禍の）不安定な情勢においても、担当者の方がこまめに足を運んでくださり、ちょっとした手続きや相談を受けてくださったことがとてもありがたかった」と当時を振り返って石橋さんは語りました。

03 活動開始から20年の知見を活かした新しい居場所のデザイン

資金調達手続きを進めると同時に、地元企業とともに新「サポートセンター心愛」の建築を進め、2026年2月にめでたく供用開始を迎えました。新施設は、これまで蓄積された当団体の知見の結晶であり、事業開始から20年の実績を経た今だからこそ発想できたデザインとなっています。こだわりの点は次の通りです。

1 地域交流を促進する立地

小学校・中学校・小中一貫校ならびに総合福祉センターの近隣に位置することで、介護体験やレクリエーション活動を通じた地域の児童・生徒等との交流をさらに深めていくねらいがあります。

計画当初の土地探しは難航しましたが、元職員である地域住民とのつながりから、幸運にも理想的な物件に出会うことができたといいます。

※介護体験とは、「ハートフル体験学習」の名称で北海道登別市が主催する、市内小中学生向けの地域交流イベント。

2 のびのびと活動するための広い敷地と開放的な空間

利用者数の増加と車椅子移動のスペースをふまえると、敷地が十分とはいえなかった旧施設の実態をふまえ、新施設は旧施設の約1.5倍もの面積を確保しました。新施設では、ご利用者やスタッフが一通りに集まってわいわい活動することができます。

また、新施設では、屋外に畑のスペースを設けることで自然と触れ合う場を整備する予定です。屋外活動を取り入れることで、大きな声を出してしまう特性をもつ利用者であっても、周囲への影響を軽減しつつ、のびのびと活動できる場所を確保することにも繋がっていきます。



3 利用者も介助者も快適な入浴設備

従来は一般浴槽にリフトを設置して入浴介助を行っていましたが、新施設では、最新式の機械浴設備が導入されたことで、利用者も介助者も相互に負担が大きく軽減され、より心地よい介助を実現できました。



04 人材にまつわる課題と強み

現在の課題のひとつとして、若手福祉人材のリクルートが挙げられます。2026年春、当団体では新たに若手外国人スタッフを迎え入れ、マンパワーを強化することを決めました。

そうした新しい人材の確保が課題となる一方で、ベテランスタッフのたゆまぬ努力によって専門性が磨かれ続けていることが、当団体にとって大きな強みとなっています。働きながら介護福祉士等の資格を取得する方など、向上心が高いスタッフたちが、3事業の枠にとらわれずにそれぞれの活動で得たノウハウを活かしながら活躍しています。

「創設時から比べて、利用者数が増え、みなさんが抱える障がいは多様になっていますが、いろいろなニーズに応えられるようスタッフも絶えず頑張っています。」と石橋さん。3事業のネットワークは、人材の成長という面でも大きな効果を生み出しています。

05 地域の仲間との縁から生まれる 登別の明るい未来

法人創設当初、地域のレストランオーナーへ活動趣旨をお話したところ、賛同を得たことで物件の譲渡を受けることにつながり実質的な活動がスタートしたそうです。さらに、今般の新施設建築計画においても、地域のネットワークを通して理想的な物件を見つけられました。こうした“ご縁”を振り返り、石橋さんはこう語ります。「これまで面識のなかった地域の方々であっても、初めてお会いして『こういう活動をしたい・地域をよくしたい』という趣旨を説明したその時に、それはいいねと賛同してくださったことは、本当にありがたかったです。そのうちに団体メンバーやサポートしてくれる方が集まって地域の仲間がつながっていきました。」



当団体では、今後も地域の人々との連携に力を入れていきたいといひます。新施設の近隣学校との連携のほかにも、地域の元気な高齢者の方々の組織や、地域福祉に携わる民生委員の方々等とのつながりに重点をおきたいと考えています。

「精神障がいや身体障がいのある方が、自宅に引きこもりがちになって久しいという例が時折あります。そうした地域社会につながれない状況にある方々の情報を、近隣住民の方に教えていただくことをきっかけにして、わたしたちが具体的な相談に乗りたいと考えています。」と石橋さん。潜在的なニーズを掘り起こすためにも地域の方々との連携は重要なのだといひます。

「地域の方々にもっとわたしたちのことを認識してもらいたい。もっと地域の方々と交流を深めていきたい」と語る石橋さんの目には、障がいの有無に関わらず地域住民がいきいきと生活する登別地域の未来が映っています。

Message

地域福祉を取り巻く課題が多様化する中、ろうきんさんには日頃から私たちの活動にご理解とご支援をいただき、心強く感じています。今後も連携を深めながら、障がいのある方の働く場や社会参加の機会を広げ、地域に必要とされる福祉活動を推進していきたいと考えています。



登別さいわい福祉会
石橋 沙織さん

Message

当支店では初めての法人向け融資となりました。普段行っている個人向け金融サービスと違い、融資で整備された施設や入浴設備は多くの方に長くご利用いただけると思います。ろうきんのサービスが個人に留まらず地域の皆様にご利用いただくこととなり、私たちにとても勤労者間の資金循環の広がりを感じる良い機会となりました。今後も地域の活動団体と連携を図りながら福祉金融機関としての役割を発揮していきたいと考えています。



北海道ろうきん
室蘭東支店
長井 副支店長

団体情報

社会福祉法人登別さいわい福祉会

理事長	辻 勲
所在地	〒059-0002 北海道登別市幸町3-6
設立日	2006年11月21日
事業内容	社会福祉事業 (就労継続支援B型事業、生活介護事業、共同生活援助事業) 公益事業(生活困窮者等に対する安心サポート事業)

ホームページは
こちら



地域社会との連携

金融経済教育の取組み

北海道ろうきん

協同組合にかかる大学生向け教育活動

北海道ろうきんは、2025年8月8日に、協同組合ネット北海道※が主催する北海道大学1年生向けの寄付講座「北海道のフィールドで協同組合を学ぶ」に、協同組合ネット北海道の一員として参画しました。

本講座は、北海道大学の一般教育演習(集中講義)として実施され、北海道の農村・地域における社会経済的課題に対して、協同組合が果たす役割を学ぶ内容となっています。座学やフィールドワークを通じて、学生が自ら課題を発見し、その解決策を考える力を身につけることを目的としています。

協同組合ネット北海道の構成団体の紹介を行うなかで、北海道ろうきんは「共生社会の実現に取り組む意義」について講義を行い、次世代を担う40名の参加者たちが協同組合について理解を深める機会を提供しました。

※協同組合ネット北海道とは、地域の協同組合・関係機関16団体による組織です。「ゆるやか、あいのり、やってみる」をキーワードとして、単一の協同組合では解決できない課題を、道内複数の協同組合の連携で解決することにより、北海道経済の発展と道民の生活向上に寄与することを目的としています。



東北ろうきん

親子向けの金融経済教育セミナーの取組み

東北ろうきんでは、移動金融車を活用した出張イベントを開催しています。移動金融車とは、ATMや簡易的な窓口の機能を搭載した専用車両で、金融機関の店舗がない地域や災害発生地域等における金融サービスの提供を主な目的としています。

出張イベントの際は、金融経済教育の提供等を目的として特別に移動金融車が出動し、複数のイベントを盛り上げました。

2025年7月31日～8月1日に開催された宮城県金融広報委員会による夏休み特別企画「みやぎ夏の金融・経済教育盛り上げ隊!」では、宮城県内の複数の金融機関とともに出展しました。東北ろうきんは「親子ライフプラン実現プロジェクト～金融について親子で学ぼう～」と題し、金融機関の仕事内容の紹介や、ライフプランニング学習のセミナーを実施しました。会場には4組の親子8名が来場し、楽しみながらお金について学びました。



中央・北海道・東北・新潟・長野・静岡・東海・近畿・中国・九州・沖縄ろうきん

若年層向けの金融教育の取組み (金融教育教材『新・大人社会へのパスポート』シリーズの制作・活用)

中央ろうきんでは、若年者向けの金融リテラシー向上の取組みの一環として、2018年から制作している金融教育教材『新・大人社会へのパスポート』シリーズの第6弾『新・大人社会へのパスポート6 ～きみならどっち?未来のお金のわかれ道～』を制作しました。

本教材は、小学生～中学生を対象としており、年齢・学年に合わせた表現・内容の4種の動画とワークブックで構成されています。「家計管理」「消費者トラブル」の基礎知識を、身近な題材に関連したクイズ(動画)や4コマ漫画(ワークブック)を通じて楽しみながら学べる内容となっています。

※「消費者教育教材資料表彰2026」[主催:(公財)消費者教育支援センター]において、『新・大人社会へのパスポート5(特別支援学校向け)』が「内閣府特命担当大臣賞」を、『新・大人社会へのパスポート6』が「優秀賞」を受賞しました。

また、中央ろうきんでは、『新・大人社会へのパスポート』シリーズを活用し、学校(地域)において、金庫職員が講師となり金融教育出前授業を実施しています。(2025年度:小学校・中学校・高校・特別支援学校・大学等での開催111回、参加者計5,765名 ※大学生協を除く)

なお、北海道・東北・新潟・長野・静岡・東海・近畿・中国・九州・沖縄の各ろうきんでも、小中学生、高校生および大学生向けの金融教育の取組みを実施しています。

新・大人社会へのパスポート5

中央ろうきん
ホームページ
新・大人社会への
パスポート5

新・大人社会へのパスポート6

中央ろうきん
ホームページ
新・大人社会への
パスポート6

地域社会との連携

地球環境の保全

新潟・長野・静岡ろうきん

省エネルギー機能等を備えた店舗の設計

2025年6月にリニューアルオープンした新潟ろうきん村上支店は、「フルZEB(ゼブ)」規格に適合する設計となっています。

ZEBは「Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」の略で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物の規格です。

村上支店は、使用エネルギーを大幅に削減する省エネルギー機能と併せて、太陽光発電システム等のエネルギー創出機能を備えることで、ZEB規格の中でもっとも厳しいレベルをクリアしました。

全国のろうきんでは、長野・静岡の各ろうきんの一部店舗で太陽光発電システムを導入するなど、エネルギー創出による環境保全の取組みを進めています。



長野・新潟ろうきん

環境に配慮した住まいでの暮らしを支援する取組み

長野ろうきんでは、住宅ローンお借入れ時の金利引下げ優遇項目の一つとして、「『エコ住宅』または『長野県産材CO₂固定量認定住宅』を対象としたお借入れであること」を設定しています。

「長野県産材CO₂固定量認定住宅制度」(通称:エココ)とは、長野県産材を使用した個人住宅などに対し、長野県がその環境貢献度を数値化して認証証書を発行するものです。地球温暖化防止および地域の森林整備の促進を目的として、2012年4月から運用されています。

なお、新潟ろうきんにおいても、環境に配慮した住宅にかかるローン金利の引下げの取組みを行っています。



近畿ろうきん

地域の親子とともに環境保全について考える取組み

近畿ろうきんでは、社会貢献預金「笑顔プラス」の取組みの一環として、地域の2団体(「国際湖沼環境委員会」および「びわこ豊穡の郷」)とともに、2025年10月25日に第6回「びわ湖まると親子セミナー」を開催しました。

びわ湖には460本もの河川が流れ込んでいますが、これらの河川からは様々な種類のごみが運び込まれます。参加者は、プログラムを通してそうしたごみの削減方法について考え、身近な事例を入口にして、世界の環境保全について学びました。



社会貢献預金「笑顔プラス」

お預かりした定期預金の利息の一部と近畿ろうきんからの拠出金の合計額を、地域の団体へ寄付する仕組みです。「国際湖沼環境委員会」はこの寄付先団体の一つとして近畿ろうきんと連携し、社会貢献活動をともに展開しています。

地域社会との連携

多様なお客様への取組み

長野ろうきん

障がいのある方を支援する取組み

長野ろうきんでは、各種手数料の無料化やローンの金利優遇制度を通じて、障がいのある方を支援する取組みを進めています。

たとえば、住宅ローンをご利用の際、お申込者が身体障がいのある方の場合、有担保ローン取扱手数料が無料となります。また、身体障がいのある方と同居されるお住まいに関するお申込みについては、金利優遇項目の一つとしてお取り扱いしています。

なお、長野ろうきんの店頭では、障がいのあるお客様のお取引にかかわる、各種お取扱手数料の無料化について掲示してお知らせしています。ご希望の方は窓口へご相談のうえ制度をご利用ください。



東海・長野ろうきん

すべての人が利用しやすい店舗づくりの取組み

東海ろうきんでは、地域のまちづくり条例を遵守した新店舗を建設し、すべての人が利用しやすい店舗づくりに取り組んでいます。

2025年5月に新築移転オープンした東海ろうきん大垣支店・垂井出張所は「岐阜県福祉のまちづくり条例」に準拠した設計となっています。広々とした店舗内には、ベビールームやキッズスペース、多目的化粧室などを設置しているほか、個室の相談カウンターなどを配備しています。

そのほか、長野ろうきんでは全店舗で車いす使用者用記帳台を設置するなど、各地のろうきんで、様々な方に気持ちよくご利用いただけるような工夫を凝らした店舗づくりを進めています。



九州・北海道ろうきん

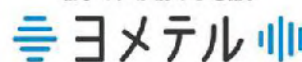
聴覚に障がいのある方のお手続きをスムーズに

九州ろうきんおよび北海道ろうきんでは、実務担当者のサービスの向上を目的として、電話リレーサービス・ヨメテルの取扱いについて、金庫内で研修会を開催しました。聴覚障がい者の方々と円滑な意思疎通を行うための社会的インフラの一つとして、本サービスの活用に向けて取組みを進めています。

手話で、文字で、電話を通訳。



相手の声が読める電話。



電話リレーサービスとは

聴覚や発話に困難のある人（きこえない人）と、きこえる人（聴覚障がい者等以外の人）との会話を通訳オペレータが「手話」または「文字」と「音声」を通訳することにより、電話で即時双方向につながる事ができる、法律に基づいた公共インフラとしてのサービスです。

全国のろうきん

バリアフリー対応の向上に向けた取組み

ろうきん協会は、全国信用金庫協会と共同で「金融機関職員のためのバリアフリーハンドブック」を制作しました。

2024年4月1日に「障害者差別解消法」における「合理的配慮」が努力義務から義務となったことを受け、法改正に伴い金融機関に求められる対応の変化等をふまえた内容を盛り込んでいます。

バリアフリーサービスの提供にあたり、障がいの分類等に応じた画一的な対応をするのではなく、それぞれのお客様の状況に合わせた柔軟な配慮をする必要性を学ぶ参考資料として、本ハンドブックを全国のろうきんで活用します。



地域社会との連携

安心・安全な社会の実現

北海道ろうきん

大学生協と連携した金融犯罪防止の取り組み

北海道ろうきんでは、大学生協事業連合や地域の大学生協等と連携し、大学生の金融リテラシー向上や生活支援に取り組んでいます。

2025年度は3大学で学習会を開催し、身近な金融トラブル事例の紹介を行い、自己防衛のために押さえておくべきポイント等の解説を行いました。そのほか、大学生協が発行する新入生向け冊子への広告掲載やろうきんの預金口座を活用するメリットをお知らせする学内イベント等を通じて、大学生の生活支援の取り組みを行いました。



長野・東北・新潟・静岡ろうきん

「電話でお金詐欺」(特殊詐欺)等の被害防止の取り組み

長野ろうきんでは、特殊詐欺等の未然防止および犯人検挙に向けた取り組みの一環として、2026年1月29日に長野県警察との情報連携協定を締結しました。

長野ろうきんのほか、同県内に本店を置く23の金融機関が同県警との間で一斉に協定を締結しており、長野県内で増加する詐欺被害を防止するために地域の金融機関が力を合わせた取り組みが進められています。

なお、東北・新潟・静岡の各ろうきんにおいても、特殊詐欺防止の取り組みとして、注意喚起のチラシ・ポスター等の掲示や呼びかけ活動などを実施しています。



近畿ろうきん

平和を考えるセミナーの開催

近畿ろうきんでは、社会貢献預金「笑顔プラス」の取り組みの一環として、地域の2団体(「CODE海外災害援助市民センター」および「関西NGO協議会」)とともに、SDGs等の社会課題に係るセミナーを開催しています。

2026年2月28日、「CODE寺子屋セミナー2025・ウクライナ戦争から4年～ウクライナの今を聴く～」と題して、ウクライナ国内の現状や、避難を余儀なくされ日本で生活しているウクライナ市民の声を知る機会を提供しました。

ロシアによるウクライナ侵攻開始から4年が経過し、寄せられる関心や情報接触の機会が変化している現況において、改めて「いま何が起きているのか」を知り、「市民である私たちはどう向き合うのか」を22名の参加者とともに考える場となりました。

社会貢献預金「笑顔プラス」

お預かりした定期預金の利息の一部と近畿ろうきんからの拠出金の合計額を、地域の団体へ寄付する仕組みです。「CODE海外災害援助市民センター」および「関西NGO協議会」はこの寄付先団体の一つとして近畿ろうきんと連携し、社会貢献活動とともに展開しています。



誰ひとり取り残さず、つながり、支え合っていける未来へ。 みらいをつなぐ ～ROKIN PROJECT～

東海ろうきん

東海ろうきんでは、2025年4月から「みらいをつなぐ～ROKIN PROJECT～」と題して、東海ろうきんが地域を支え、地域と人々の橋渡し役になることで、互いが「つながり・支え合う」サイクルをつくっていく取組みを実施しています。本プロジェクトは「地域の未来」「働くあなたの未来」「家族の未来」をつなぐことをテーマに、多様なジャンルの施策を織り交ぜたものとなっています。

はたらく人にありがとうメッセージ

“はたらく人とその家族に寄り添う福祉金融機関”として、幅広い世代の方々に「はたらくこと」について考え、「はたらく人への感謝の気持ち」を発信する機会を提供し、寄せられたメッセージを広く発信することで、すべてのはたらく方々の励みにしていただきたいという思いから、2010年から継続している施策です。

第16回となる今回は、3,208通の応募が寄せられ、その中から15作品が受賞作品として選出されました。

2025年11月23日（勤労感謝の日）に開催された授賞式では、地域で活躍するラジオパーソナリティーの方が作品を朗読し、会場はあたたかい雰囲気になりました。



地域のプロスポーツチームとの連携

東海ろうきんでは、スポーツ事業支援を通して青少年の健やかな成長を促進するとともに、プロ野球チーム「中日ドラゴンズ」やプロサッカーチーム「名古屋グランパス」への協賛により地域の活性化をめざす取組みを行っています。

東海ろうきんナイター

2025年7月29日に開催された中日ドラゴンズホームゲームの「東海ろうきんナイター」では、「ろうきん杯」（東海ろうきんが協賛する少年野球大会）参加者の子どもたちが、始球式やスピードボールチャレンジ（投球速度の測定イベント）に参加しました。



©中日ドラゴンズ

グランパス サステナEXPO ブース出展

2025年9月20日に開催された、名古屋グランパスホームゲーム試合開始前のイベント「グランパス サステナEXPO」にブース出展しました。

「地域とつながる“お金の学び”」をテーマに、金融クイズや1億円の重さ体験コーナーなどを設けて、世代を問わず、楽しみながら金融リテラシーについて学んでいただく機会を提供しました。



[意思のあるお金 3]

ESG投融資の取組み

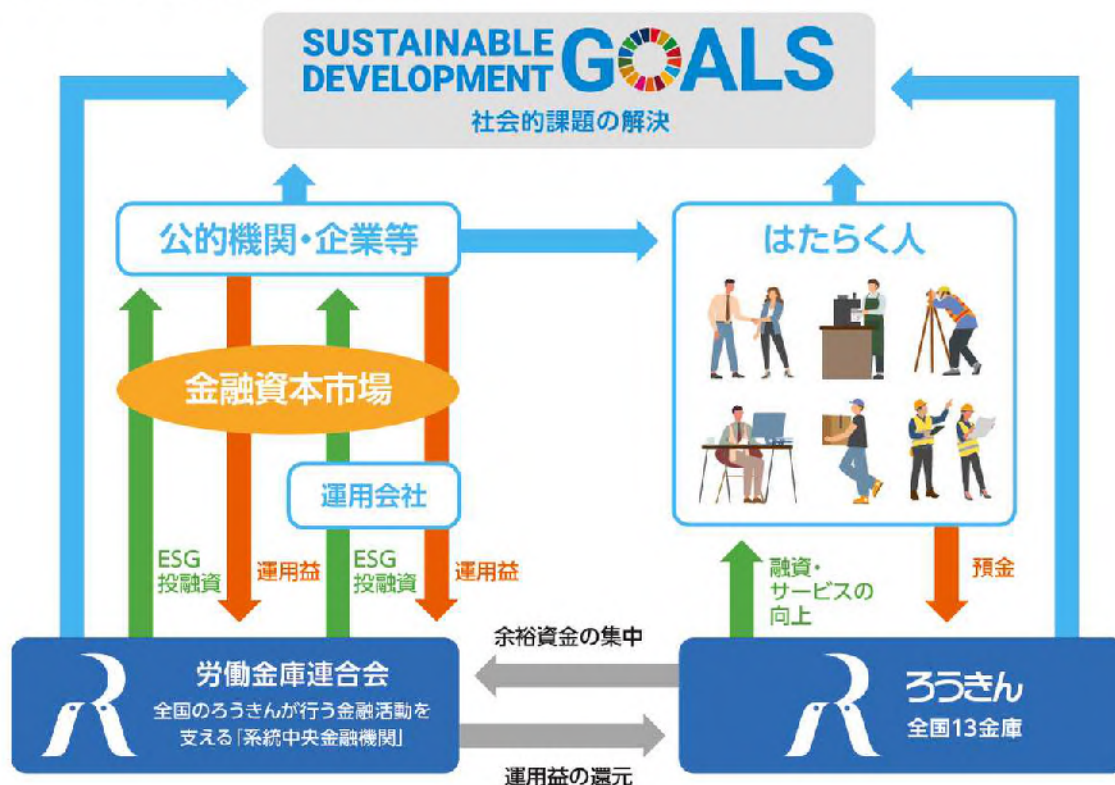
ろうきんは、はたらく人の大切な資金を、
はたらく人の生活向上のための融資や、
社会や環境等に配慮したESG投融資などに
役立てることを通じて、
持続可能な社会の実現に資する
お金の流れをつくりだしています。

ESG投融資の取組み

ろうきんのESG投融資とSDGsの関係

全国のろうきんの系統中央金融機関である労働金庫連合会(労金連)は、「人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与すること」(P1 ろうきんの理念)の実現のため、「社会的責任(CSR)を重視した誠実な経営」を経営方針の一つに掲げています。

このような経営方針を実践しSDGsを達成していくため、持続可能な社会の実現をめざす金融の担い手として、働く人を取り巻く社会的課題の解決につながる資金循環をつくりだしていくことが必要であるとの考えのもと、ESG投融資に取り組んでいます。



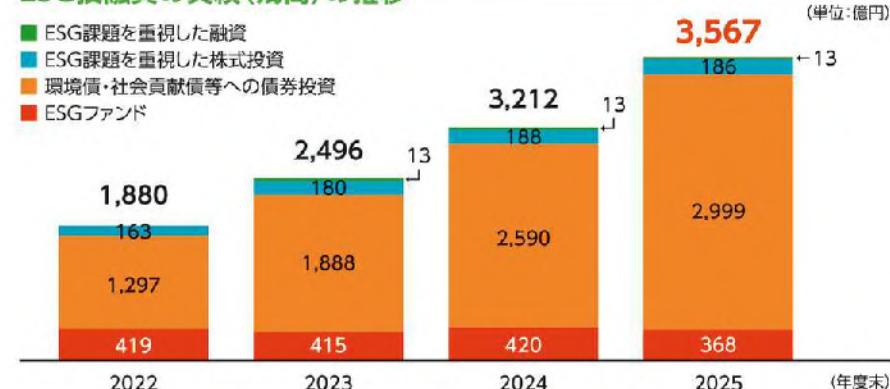
ESG投融資とは？

投融資先の決定にあたって、財務分析だけでなく、環境(Environmental)・社会(Social)・企業統治(Governance)の課題を考慮し、投融資を行うもの。

ESG投融資の実践

労金連は、全国のろうきんの運用可能な余裕資金(貸出金以外のお金)を労金連に集中し、効率的に運用するなかで、投資先企業のESG課題への取組みに配慮したESG投融資を実践しています。また、インパクトファンドなど、持続可能で包摂的な世界の実現に向け、好ましいインパクトをもたらす企業への投融資を行っています。

ESG投融資の実績(残高)の推移



2025年度の投融資実績(2026年3月末)

ファンド・債券・株式・シンジケートローン	残高(単位:億円)
ESGファンドへの投資	368
環境債・社会貢献債等への債券投資	2,999
うち、環境債(グリーンボンド)	896
うち、社会貢献債(ソーシャルボンド)	856
うち、サステナビリティボンド等	1,246
ESG課題を重視した株式投資	186
ESG課題を重視したシンジケートローンへの融資	13
合計	3,567

四国ろうきん

2025年11月13日、徳島県にある「鳴門市賀川豊彦記念館」が国際協同組合同盟(以下、ICAという)の定める「世界協同組合文化遺産」に選定されました。2026年1月31日には「鳴門市賀川豊彦記念館 世界協同組合文化遺産認定記念講演・祝賀会」が開催され、ろうきん業態からは、四国ろうきんおよびろうきん協会が参加しました。

賀川豊彦は「協同組合運動の父」として知られており、生涯をかけて「友愛・互助・平和」の精神にもとづく実践に取り組んできた人物です。「鳴門市賀川豊彦記念館」は、賀川豊彦の精神を伝える多数の資料と、周辺の自然と調和した外観を備えた施設であり、協同組合活動の意義にかかるメッセージを発信し続けています。

記念講演では、ICA理事の中野理氏による講演が行われたほか、「鳴門市賀川豊彦記念館」の歩みや賀川豊彦を紹介するビデオの上映および来賓メッセージ等の披露があり、参加者たちは、「協調と思いやりの聖地」である本記念館の快挙を祝いました。

協同組合文化遺産とは

協同組合文化遺産は、「世界の協同組合のストーリーにまつわる歴史的建造物や記念碑、伝統や慣習」を記念し、人々が協力することによって成し遂げて来た様々な成果を思い起こさせるものであり、将来の世代が協同組合を学び発展させることに役立てることを目指しています。

今般、ICAは、協同組合文化遺産(Cooperative Cultural Heritage)プログラムの開始と第一弾のリストを発表しました。今回は25か国31組織(2025年11月20日時点)が選定されており、「鳴門市賀川豊彦記念館」は日本で唯一の選定となりました。



文化遺産選考委員の言葉

徳島県鳴門市の静かな海辺の街に、日本で最も感動的な人物の一人、賀川豊彦(1888-1960)を記念した博物館があります。2002年に開館したこの博物館は、賀川の著作、書、そして私物を保存し、彼の奉仕と社会正義のメッセージが未来の世代に伝わるよう努めています。

賀川豊彦の物語は、並外れた道徳的勇気と精神的信念に満ちています。彼は特権階級の安楽を拒み、神戸のスラム街で貧しい人々と共に暮らしました。そこで彼は労働者やその家族と肩を並べ、慈善事業ではなく、組織的な協力とエンパワメントを通して貧困の軽減を目指しました。



賀川 豊彦

彼の哲学はシンプルでありながら革新的でした。それは、人々が信頼と平等のもとに共に働くことによってのみ、社会正義が実現できるというものでした。彼の尽力によって、日本では生協、農業協同組合、信用組合が誕生し、今日でも何百万人もの人々に奉仕し続けています。

この博物館は、単なる遺品の収集にとどまらず、思索への誘いとなっています。教育プログラムや特別展は彼の遺産を継承し、新しい世代に協力の力と社会的な責任を紹介しています。協力とは単なる経済的な概念ではなく、道徳的な道であり、尊敬、公平、そして慈悲を軸に人生を組織する方法であることを、この博物館は私たちに思い出させてくれます。

分断と不確実性が蔓延する現代において、賀川の教えは今もなお深く心に響きます。真の進歩は競争からではなく、愛に導かれ、正義に根ざし、協力の精神で結ばれた人々が手を取り合うことで生まれるのです。

※認定NPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会「鳴門市賀川豊彦記念館ニュース」特別号(2025年12月15日発行)から抜粋。

ICAウェブサイト

鳴門市賀川豊彦記念館の紹介ページ

<https://www.culturalheritage.coop/aboutTangiblePage/kagawa-toyohiko-museum>



ろうきん森の学校

－「森づくり」から「人づくり」、「地域づくり」につながる活動－

「ろうきん森の学校」は、労働金庫連合会（労金連）の50周年記念社会貢献活動として、2005年に全国3地区のNPOと協働で創設した、豊かな森の再生・環境問題に取り組む人材育成を目指す取り組みです。2015年からさらに2地区が加わり、2026年3月末現在、富士山・福島・新潟・岐阜・広島の全国5地区で活動を展開しています。

「森を育む」「人を育む」「森で遊ぶ」の3つを活動の柱として取り組み、里山再生や環境教育人材育成、子供から大人まで多様な人が楽しめるプログラムの提供等を行っています。

2025年度も、森林整備や自然体験に加えて、地域の課題解決に取り組む人材を育成する研修を実施するなど、各地区で様々なプログラムを実施しました。

全国5地区 運営事務局の紹介

①富士山地区

NPO法人ホールアース自然学校

②福島地区

NPO法人いわきの森に親しむ会

③新潟地区

NPO法人かみえちご
山里ファン倶楽部

④岐阜地区

NPO法人
グリーンウッドワーク協会

⑤広島地区

NPO法人ひろしま自然学校



R ろうきん

森の学校 活動の3つの柱

1. 森を育む

植樹、間伐・
下刈り等の
森林整備

2. 人を育む

森づくりや
環境教育リーダーの
育成

3. 森で遊ぶ

里山を活用した自然体験・
環境教育プログラムの開
発と実施

キーワード

- 厳しい環境の中ではたらく勤労者等に精神的な安らぎを与える「緑」
- 身体を動かす喜びと「健康の維持」
- 「地球環境保全」への共感と参画

基本方針

- 地球温暖化防止に対して足元から取り組みます。
- 地域の多様な自然を取り戻します。
- 里山を活かした暮らしの提案・発信をします。
- 森づくりから始める人づくりを行います。
- 地域全体で活動に取り組みます。
- 自律した運営をめざします。

2025年度活動紹介

① 富士山地区 (静岡県富士宮市ほか)

WENS (Whole Earth Nature School) リーダーズ

大学生を主な対象として、洞窟探検や富士山の宝永火口トレッキングなどの自然体験プログラムを実施しました。参加者は体験活動を通じて実践的なスキルを学び、希望者はNEAL (ニール) リーダー (※) 資格を取得。学生同士やスタッフとの交流を深めながら、次世代の環境教育を担う人材育成につなげました。

※NEALリーダーとは、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する「自然体験活動指導者」のこと。全国体験活動指導者認定委員会によって認定される。



② 福島地区 (福島県いわき市)

岩出 (いわで) の郷 (さと) 里山保全活動

岩出地区は、近隣住人の参加の元、昔ながらの里山を再生する活動をしています。その効果により、市街地ではなかなか見ることができない、カタクリの群生地ができるほどになりました。また、森林整備以外にも、地域と一緒に田植えや、稲刈り、収穫祭などの活動が広がっています。



③ 新潟地区 (新潟県上越市)

棚田サポーター事業

「様々なアプローチで棚田と仲良くなる」ことを目指して、田植えや稲刈りのほか、用水路清掃や活動記録などを行い、多くのサポーターにご協力いただきました。初めて高校生の団体が稲刈りに参加し、声を掛け合いながらチームワークと機動力を活かして作業を進めてくれました。棚田に集まる人々とのつながりが棚田保全の原動力になっています。



④ 岐阜地区 (岐阜県美濃市)

実のなる森づくり

岐阜地区が活動している「古城山 (こじょうざん) ふれあいの森」の一角を、人々が集う場所にするための整備活動が始まりました。整備に使う資材は、できるだけ現地で調達した地域材を利用しました。参加者全員で話し合いながら、自分たちが通いたくなる森づくりを目指します。



⑤ 広島地区 (広島県山県郡北広島町)

森の妖精くらぶ

森の妖精くらぶは、幼児教育を学ぶ大学生と共に企画運営を行う、幼児親子が主体となって自然あそびを楽しむ場です。保護者の方や学生と一緒に、子どもたち一人ひとりの発見や興味を見守り、子どもたちがのびのびと自然の中で過ごせる場づくりを行っています。また、保護者の方におかれても、森の自然や子どもたちについて新しい発見があるようです。



ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の実践

ろうきんは、すべての職員が安心して働き続けることができ、日常業務に誇りと熱意をもって働くことができるよう、「労働金庫にふさわしい「職場風土」の確立に向けた基本方針」に則った様々な取り組みを労使一体となって進めています。

基本方針(抜粋)

労働金庫にふさわしい「組織風土」の確立に向け、職員が能力を発揮しながら働き続けられ、モチベーションの向上に繋がっていく職場環境の整備を進め、同一労働・同一賃金への対応を含むディーセントワーク(働きがいのある人間らしい仕事)と福祉金融機関としての役割発揮によるSDGsの実現に取り組んでいく。

育児休業等取得率(2025年度)※1

「男性の育児休業取得に関する業態ガイドライン(男性取得の割合50%)」を設定し、男性の育休取得を促進しています。

2025年度は、初めて、全ての労働金庫(13金庫)および中央機関(3団体)が目標を達成しました。

男性(金庫・団体別)		女性
最大値	最小値	
116.6% ※2	61.5%	全対象者が取得

男女の賃金の差異(2025年度)※1

すべての金庫・団体が、男女の賃金の差異を公表しています。

労金業態における賃金差異の平均(全労働者)は、72.4%となりました。

〔参考〕金融業・保険業(全労働者)平均:64.0% ※3

<注釈> ●短時間勤務制度等の利用が女性に多いこと・女性の管理職比率が低いこと等が、男女の賃金差異の主な要因となっています。

●賃金制度(賃金や処遇等)に男女差はなく、同一の基準を適用しています。

労金業態	〔金庫・団体別〕	
	最大値	最小値
72.4%	82.0%	59.3%

女性の管理監督職比率(2025年度)※1

男女ともにすべての職員がその希望に応じて経験や能力を最大限発揮して活躍し、働き続けられる職場環境の整備を進めています。

女性の割合	労金業態	〔金庫・団体別〕	
		最大値	最小値
役職員の占める女性労働者の割合(正職員)	43.8%	54.6%	35.1%
係長級にある者に占める女性労働者の割合	40.5%	58.3%	21.7%
管理職に占める女性労働者の割合	20.5%	34.0%	3.1%
役員に占める女性割合	6.7%	16.7%	0.0%

くるみん・えるぼしの認定(2026年3月末)※1

仕事と子育ての両立支援に向けて積極的に取り組む「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受け、6金庫2団体が「くるみんマーク」、5金庫1団体が「プラチナくるみんマーク」を取得しています。

また、女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況が優良な企業として厚生労働大臣の認定を受け、計7金庫1団体が「女性活躍に基づく認定マーク(えるぼし・プラチナえるぼし)」を取得しています。

くるみん認定		えるぼし認定		
くるみん 6金庫2団体	プラチナくるみん 5金庫1団体	2段階目※4 1金庫	3段階目※4 5金庫1団体	プラチナえるぼし 1金庫
				
新潟・静岡・北陸・ 中国・四国・ 沖縄ろうきん ろうきん協会・日本労信協	北海道・中央・ 長野・東海・ 近畿ろうきん 労金連	東海ろうきん	中央・北陸・中国・ 四国・沖縄ろうきん 労金連	近畿ろうきん

健康経営の推進

すべての労働金庫(13金庫)が「健康経営優良法人2026」に認定され、うち新潟・長野ろうきんが大規模法人部門の上位500法人を認定する「ホワイト500」に認定されました。

大規模法人部門 ホワイト500	大規模法人部門	中小規模法人部門
新潟・長野ろうきん	北海道・東北・中央・静岡・ 北陸・東海・近畿・ 中国・四国・九州ろうきん、 労金連、日本労信協	沖縄ろうきん、ろうきん協会、 ろうきん健保



※1 すべての労働金庫(13金庫)および中央機関(3団体)を対象に集計 ※2 対象年度内に育児休業等取得した者の数/対象年度内に配偶者が出産した者の数 ※3 女性の活躍推進企業データベースオープンデータ(2026年6月11日時点)をもとに作成
※4 「えるぼし」の認定の段階は、「採用」、「継続就業」、「労働時間等の働き方」、「管理職比率」、「多様なキャリアコース」の5項目の認定基準のうち満たした数に応じて3段階に分けられる。

ろうきんのネットワーク

ろうきんは、北海道から沖縄まで、全国13のろうきんでネットワークを形成し、地域の特性にあった様々な活動を展開しています。

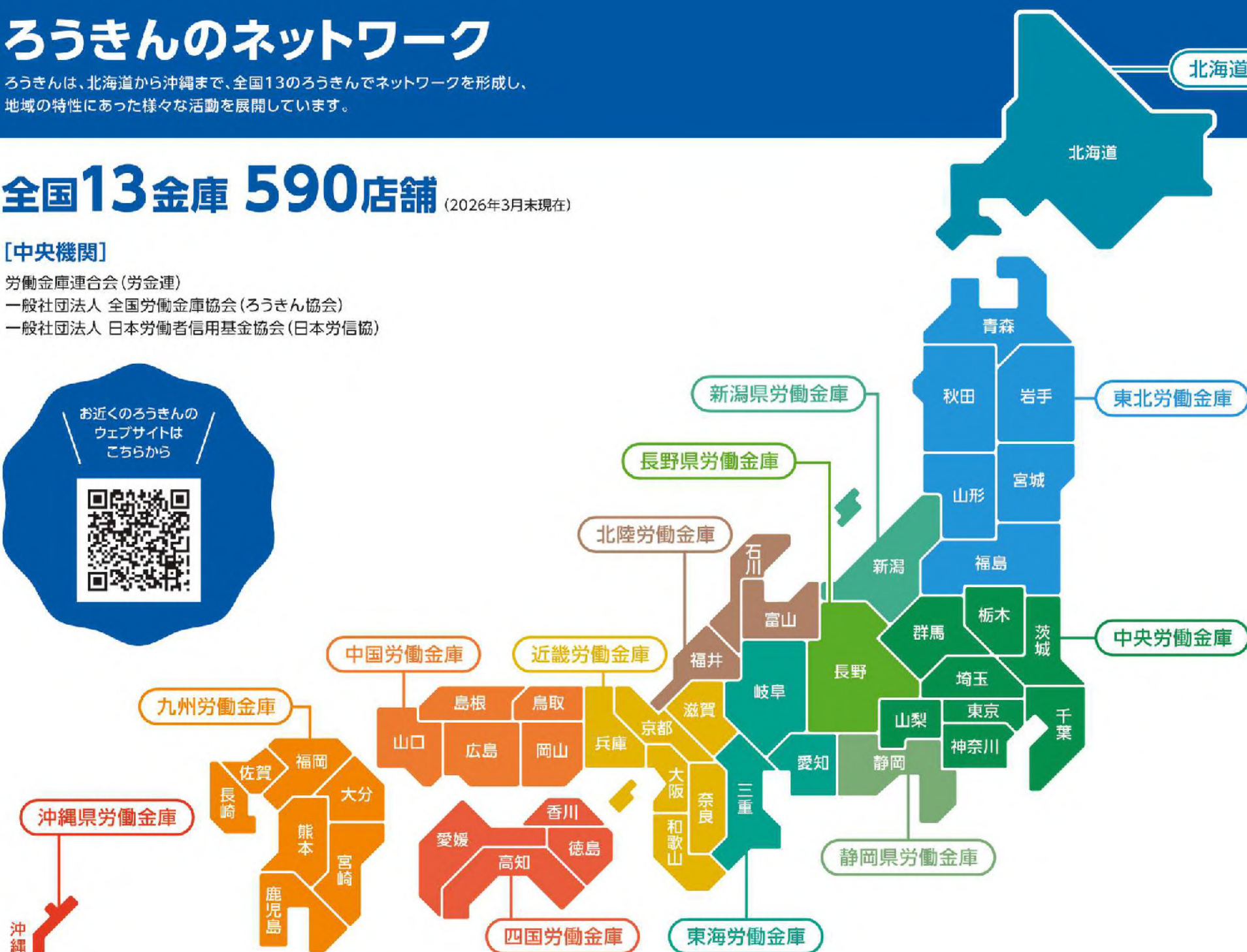
全国13金庫 590店舗 (2026年3月末現在)

[中央機関]

労働金庫連合会(労金連)

一般社団法人 全国労働金庫協会(ろうきん協会)

一般社団法人 日本労働者信用基金協会(日本労信協)





SDGs Report 2026

2026年8月発行



一般社団法人
全国労働金庫協会

〒101-0047
東京都千代田区内神田1丁目13番4号
HP: <https://all.rokin.or.jp>

ろうきん
SDGs
アクション



UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。